



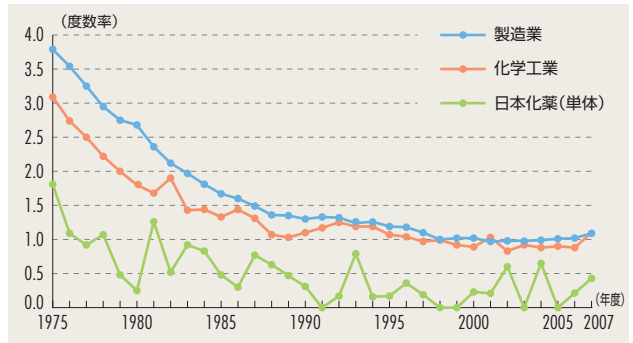
事故防止、労働災害防止の取り組み

日本化薬グループでは、事故防止、労働災害防止にグループ一丸となって取り組んでいます。その結果、労働災害の発生率（労働災害度数率）は化学業界平均に比べて低い水準で推移しています。さらに、品質、環境に続き、労働安全衛生についてもマネジメントシステムの構築を目指しています。実際の安全衛生活動は、本社が実施している環境安全衛生診断とリスクアセスメントとしての安全審査を2本柱として、これに事業場の日常活動を加えて実施しています。



環境安全衛生診断

労働災害度数率の推移



2007年度の安全目標および実績

	目標	実績	内容	2006年度実績
休業災害	0件	2件	・歩行中転倒し骨折 ・キャビネットを押した時に筋断裂	1件

工場を中心とした日常活動

工場では種々の活動を通じて安全活動を展開しています。

- 5S活動
- ヒヤリハット活動
- 危険予知活動
- 安全パトロール、安全モニター
- TPM活動

潜在危険性要因の把握

化学反応および作業等に伴う重大な事故や労働災害に繋がる恐れのある要因を把握し、事故の未然防止に取り組んでいます。化学反応についてはHAZOP、設備や作業

に伴う労働災害については当社独自に開発したRATなどを利用しリスクアセスメントを進めています。

火災への対応

各事業場では、火災に備えて消防車、消火栓および化学物質用の消火器を設置しています。また、実地訓練の他、地域の消防競技大会に参加し好成績をあげています。



消防施設(福山工場)

労働災害度数率：100万労働時間あたりの休業災害件数を示します。

5S活動：整理、整頓、清掃、清潔、躰の頭文字からとった活動です。

・整理とは必要と不要なものを区分、不要なものは片付けること・整頓とは必要なものを必要な時に即取り出せるようにすること

・清掃とは清浄な状態に保つこと・清潔とは設備や環境をいつもきれいに保つこと・躰とはルールや正しい作業を身につけ、守らせること

TPM活動：(Total Productive Maintenance) 全員参加型の生産力の維持活動です。ねらいは災害ゼロ、不良ゼロ、故障ゼロなど効率を阻害するあらゆるロス、ムダを徹底的に排除し、生産効率を極限まで高めて行くことによる企業業績の向上です。同時にこの活動を通して、働く人の自己実現による生きがいを求めることも狙っています。

HAZOP：(Hazard and Operability Study) 化学プラントの安全性評価手法で、化学反応に伴う潜在的な危険性を網羅的に抽出し評価することができます。

災害への対応

全ての事業場ごとに地震をはじめ自然災害に備えた「社員の防災（地震）手引き」を整備し、全従業員に配布しています。手引きには、地震が起きたときの緊急行動、安否確認の連絡方法、交通機関が不通のときの代替帰宅手段等が記載されています。

●災害時通報連絡システムの活用

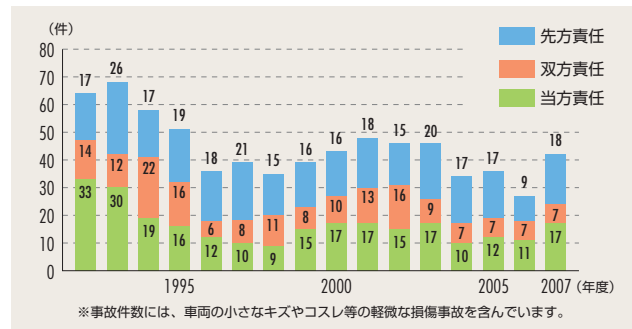
地震等の災害時の社員の安否は、インターネットの

メール機能を利用した通報連絡システムで実施しています。このシステムは地震等の災害が発生して社員の安否確認が必要になったときに災害対策本部から社員にメールを送付し、社員が簡単な操作でメールに返答することにより安否を集計することができます。日本国内で震度6以上の地震が発生したときには社員の安否確認を行っています。

交通安全活動の取り組み

日本化薬では、業務および通勤に多くの自動車を利用しています。1992年に交通安全対策チームを結成し、交通事故の防止に取り組み始めました。また、2005年度からは業務上の運転者に対し、運転者の運転特性をセイフティレコーダーを用いて診断するオリックス自動車（株）が提供するサービス「ALIVE」を導入し、継続して実施するとともに、同様の装置を購入し、通勤で使用する従業員に対しても社内で診断を始めました。今後は映像を利用した装置の導入も検討しています。

■業務上自動車事故の推移



健康管理の推進

定期健康診断、化学物質等の取り扱い、VDT作業等の特殊健康診断を実施しています。健康診断の後に産業医が面談で一人ひとりの健康について指導、助言をしています。

またデータベースに取り扱う化学物質の有害性データを蓄積し、これを活用して職業性疾病の予防を図っています。

AEDの設置

工場事業場、本社にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。適時、救急処置法講習会を実施して突然の心臓発作に対応できるように訓練しています。



AED (本社)

RAT: (Risk Analysis by the Type of Accident) 機械加工設備等における人の動きを中心とした労働災害の防止を目的として潜在危険性を漏れなく抽出し評価する手法です。

セイフティレコーダー: 加速度センサ、ジャイロセンサ、位置センサー (GPS受信機) と記憶装置から構成される運転診断機器です。運転中の加速度と角速度を計測し、このデータをもとに、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどの運転上の癖を解析できます。

VDT (Visual Display Terminals) 作業: ディスプレイ、キーボード等を使用した作業のことで、一般にはパソコンを用いた作業を言います。厚生労働省ではVDT作業における労働衛生環境管理のガイドラインを定め、労働者の健康管理に配慮するよう使用者に義務付けています。